

## 消費者との交流

個人消費者の声に耳を傾け、その声を生産活動に反映して、新たな農産物の開拓や改良に役立てようと考えています。そこで、メンバー各自の農産品を持ち寄り、道の駅や不老山公園などで展示販売を行っています。

消費者に農産品の説明をしたり、育て方を教えたりすることで、相手の要望を聞き出し、できるだけ要望に応えるために、生産コストの課題など様々な問題を整理し、それを克服できるように、みんなで考え工夫していこうというものです。



「道の駅」前での消費者交流の様子

## 青年農業者との交流

佐世保や平戸など5つの青年農業者組織で構成する県北地区青年農業者連絡協議会に加入し、プロジェクトや意見発表、研修活動などを通して県内の青年農業者との交流を深めています。

また、平成18年9月に山形県で開催された第18回全国農業青年交換大会に参加し、農業技術・経営などに関するプロジェクト発表や優良農業青年クラブの意見発表を聞いたり、先進地視察を行ったりして、全国の青年農業者との情報交換や交流を深めました。



全国農業青年交換大会での交流と視察の様子

### 前田

裕治さん  
ゆじ

(御厨・木場、24)



### 消費者の要望に応えたい

私の主な生産品目は植木、シキミ、ヒサカキです。ツツジなどの植木は福岡の卸問屋や市場に出荷していて、主に街路樹など公共事業で取引されています。個人での取引では中国地方を中心にシキミの切り枝の需用が高く、収益を考えると生産品目の一本化を考える時期にきていると思います。

会の活動を通して消費者との交流を図りながら、個人消費者の考え、要望などを整理して今後の消費拡大につなげていきたいと思っています。

### 白石

健一さん  
けんいち

(御厨・田代、25)



### 新たな発見と刺激になった

全国大会のプロジェクト発表では、インターネットによる販路拡大の取り組みや、乳牛の自動乳飲ませ機械の導入による失敗事例など全国の青年農業者の取り組みが紹介され参考になりました。

全国の青年農業者と交流することで新たな発見があったり、刺激になったりしてとても有意義な交流会になりました。今も大会に参加した仲間たちと連絡をとりあい、意見交換などで交流を深めています。



食育活動

青年農業者会の活動を農業以外の団体、個人に知ってもらおうと食育活動に取り組んでいます。

平成17年から大崎小学校で食育活動を行い、栽培しやすいブロッコリーで農業体験を行っています。

会の活動を地域に知ってもらうことに加え、子どもたちに作ることにたいへんさや収穫の喜び、食べることのありがたさ、大切さを知ってもらい、野菜嫌いをなくしてほしいとの狙いもあります。

平成18年度は大崎小学校、星鹿小学校、上志佐小学校の3校に食育活動を広げています。



大崎小学校でのブロッコリー植えの様子



松本 康明さん  
 やすあき  
 (御厨・小船、32)

会の活動を知ってほしい

学校の先生から「野菜嫌いが少なくなりました」との評価をいただきました。子どもたちは一生懸命、除草や水やりの世話をしてくれて、毎日、色や大きさが少しずつ変わるのが楽しみのようでした。「大きいブロッコリーが採れてうれしい」「自分で育てたブロッコリーはおいしい」と話してくれてうれしく思います。

今後でもできる限り多くの学校で食育活動を行い、子どもたちの野菜嫌いをなくしていき、青年農業者会の活動を多くの人に知ってほしいと思います。

○問合せ先 農林課

松浦青年農業者会では、松浦で農業に従事している青年農業者に、会への参加を呼びかけています。より多くの青年農業者とプロジェクト活動や意見発表、組織活動の自主運営や各種研修会などを通じて、農業後継者としての資質の向上を図ることで、魅力ある農業経営を目指していきます。

